いわて復興だより

がんばろう!岩手 つながろう!岩手
第196号
令和8年度第1号

三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にし、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

開催

ジオラマで学ぶ防災教室を開催　岩泉高校KIZUKIプロジェクト

岩手全域 ALL IWATE

９月11日（金）、岩手県立岩泉高等学校の生徒が講師を務める「ジオラマ防災教室」が田野畑村立田野畑小学校で開催され、４年生の児童19人が楽しみながら地域の防災について学びました。

この取り組みは、令和８年度「いわての復興教育推進事業」の一環として小学校と高校が連携して実施され、また、地域や社会の課題解決に取り組む岩泉高校の探究学習「KIZUKIプロジェクト」の活動として行われました。生徒たちは、児童が防災を身近に感じられるよう、授業内容や進め方を試行錯誤しながら準備を重ねてきました。

当日は、生徒と児童が協力して田野畑村のジオラマを作成。津波や土砂災害の危険箇所をピンと毛糸で示しながら、自宅周辺のリスクや避難場所について考えました。完成したジオラマには地図が投影され、児童たちが考えた危険区域や避難場所を可視化。児童たちは互いに相談しながら避難経路を考え、災害時の行動を具体的にイメージしていました。

さらに、地震や津波、土砂災害に関するクイズ、防災ポーチづくり、新聞紙を使った防災スリッパづくりにも挑戦。防災ポーチづくりでは、非常食として適したお菓子とそうでないお菓子があることを学んだほか、防災スリッパづくりでは、完成までの速さを競いながら実際に履いて使い心地を確かめるなど、体験を通じた学びの機会となりました。

参加した児童からは、「ジオラマを作って普段暮らしている場所の危険箇所を確認できた。家に帰ったら家族にも伝えて、いざという時に備えたい」との感想が聞かれました。

また、講師を務めた高校生からは、「震災を知らない世代に、災害の危険性や命を守る方法を分かりやすく伝えるために準備を重ねてきました。児童たちの反応を見て、自分たちも改めて防災について考える機会になりました」と話していました。

高校生たちは最後に、「災害はいつ起こるか分かりません。日頃から生活用品や食料を備え、情報を活用しながら防災について知ることが大切です」と児童たちに呼びかけ、防災を日常の中で考えることの重要性を伝えていました。

■問い合わせ　岩手県立岩泉高等学校
☎0194-22-2720

児童がクイズに挑戦

ジオラマ作成中

完成したジオラマ

防災ポーチ作成

開催

令和８年度　第１回 いわて復興未来塾　開催

三陸沿岸 SANRIKU COAST

ガイドの説明を聞く様子

９月23日（水・祝）、東日本大震災津波の教訓を学び、防災意識の向上を図ることを目的に、第１回「いわて復興未来塾」（併催：いわて三陸復興フォーラム）を開催し、県内外から40人が参加しました。

午前は、三陸鉄道震災学習列車に乗車し、社員による案内を通じて、震災当時の被害状況や災害時の行動の重要性について学びました。

午後は、震災遺構「たろう観光ホテル」と宮古市災害資料伝承館を見学しました。たろう観光ホテルでは、津波が迫る緊迫した映像から災害の脅威と避難判断の重要性を実感し、「想定を超える災害」に備える必要性を改めて認識しました。

また、宮古市災害資料伝承館では、被災物を見学しながら、過去の三陸津波の歴史、防災・減災の取り組みについて学び、災害の記憶や教訓を継承する大切さへの理解を深めました。

参加者にとって「自分の命は自分で守る」という防災の基本を再確認するとともに、震災を知らない世代へ教訓を語り継ぐ重要性を考える機会となりました。

■問い合わせ　県庁復興推進課
☎019-629-6945

開催

東京ドームで岩手の魅力を発信！「橙魂シリーズ」で全国のファンに感謝を届けました

東京都 TOKYO

そばっちがグラウンドに登場

読売新聞社主催の「橙魂シリーズ」が、５月26日から28日に東京ドームで開催されました。

「橙魂シリーズ」は、東日本大震災の復興支援を目的にスタートした取り組みです。選手が着用したユニフォームのチャリティオークションを実施し、その収益を義援金として被災地に寄付するなど、継続的な復興支援活動が行われています。

会場では、岩手県がＰＲブースを出展しました。岩手県公式ＳＮＳをフォローした方を対象に、抽選で岩手県オリジナルグッズが当たるイベントを実施したほか、先着200名限定で県産米を配布しました。

また、県公式キャラクターの「わんこきょうだい」の「そばっち」がグラウンドに登場。来場者とのグリーティングや写真撮影会も行われ、幅広い世代に親しまれました。

全国の皆さまへ東日本大震災に対するこれまでの温かいご支援への感謝を伝えるとともに、岩手県の豊かな魅力を広く発信することができました。

■問い合わせ　県庁復興推進課
☎019-629-6945

世界へ、未来へ　いわてTSUNAMI（つなみ）メモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」（いわてTSUNAMI（つなみ）メモリアル）を紹介します。

東日本大震災津波伝承館では、７月18日（土）から９月12日（土）まで、令和８年度第１回企画展示「災害に備えた岩手県の新たな取り組み」を開催しました。この展示では、東日本大震災津波からの教訓に基づくこれまでの取り組みに加え、避難所運営におけるDX化やドローン活用など、防災分野における最新の知見や技術を紹介しました。

また、展示期間中には、防災意識の醸成に向けた効果的な学びの場を提供するため、高田松原津波復興祈念公園国営追悼施設・祈念施設管理棟セミナールームで、「防災アイテム体験」イベントを開催し、段ボールベッド体験や段ボールトイレ体験を行いました。

また、東日本大震災津波伝承館は、９月22日に開館７周年を迎えました。これを記念し、県立図書館と連携した「出張！-セミナー ボードゲーム×防災 by 岩手県立図書館」を開催し、多くの参加者が防災ゲームを楽しみながら防災を学び、交流を深めました。

このほか、９月21日（月・祝）、23日（水・祝）には、今年度２回目となる防災アイテム体験イベント「作ってみようよ！防災ボトル♪」を開催し、日常生活の中で実践できる防災対策について学ぶ機会を提供しました。

さらに、釜石海上保安部との共催で、９月22日（火・祝）から令和９年１月15日（金）まで、伝承館エントランスで「東日本大震災　釜石海上保安部の対応記録」を展示しています。

東日本大震災津波伝承館では、今後も企画展示や体験イベントを通じて、東日本大震災津波の事実と教訓を広く発信するとともに、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

■問い合わせ
東日本大震災津波伝承館
☎0192-47-4455

令和８年度第１回企画展示の様子

開催 六本木ヒルズで「いわて推しフェスタ」開催！

東京都 TOKYO

7月11日（土）から7月12日（日）の2日間、三陸復興15年の歩みと、これまで国内外から寄せられた温かい支援に対する感謝を伝えるとともに、岩手の豊かな観光・食・文化・暮らしの魅力を発信する「いわて推しフェスタ」を東京都港区六本木ヒルズアリーナで開催しました。

会場では、知事によるトークショーをはじめ、盛岡さんさ踊りや泣き相撲大会、大槌町の虎舞など、岩手を代表する伝統芸能・文化が次々と披露され、多くの来場者を魅了しました。さんさ踊りのステージでは、踊り方のレクチャーが行われ、来場者が輪踊りに参加する場面も。会場全体が一体となって盛り上がり、岩手ならではの熱気に包まれました。

また、会場にはキッチンカーが立ち並び、盛岡冷麺や三陸の海の幸岩手自慢のグルメを提供。クラフトビールの販売や日本酒の試飲会も行われ、子どもから大人まで幅広い世代が岩手の味覚を満喫しました。二日間を通して、多くの方が来場し、会場は終始賑わいを見せました。

さらに、岩手県の魅力に加え、東日本大震災津波や林野火災の復興支援に寄せられた多くのご支援への感謝の思いも発信しました。

さんさ踊りを踊る様子

■問い合わせ　県庁産業経済交流課
☎019-629-5537

開催 東大生が学ぶ三陸の魅力と復興の歩み ～東京大学体験活動プログラム～

三陸沿岸 SANRIKU COAST

4日目・宮古みちのく潮風トレイル

8月18日（火）から21日（金）までの4日間、東京大学体験活動プログラム「みちのく潮風トレイルを通した持続的な地域振興～トレイル＆トレイン～」を実施しました。県では東京大学との包括連携協定に基づき学生を受け入れており、今年度は4名の学生が参加しました。学生は、宮古市や田野畑村のみちのく潮風トレイルの散策や三陸鉄道の乗車・車両基地見学、東日本大震災津波伝承館等の震災伝承施設の訪問、震災語り部や県外から移住して沿岸地域で活躍する方々との交流を通じて、復興から現在、未来へと続く三陸の歩みを体感するとともに、三陸沿岸地域の持続的な振興について考えました。参加した学生からは、「今後のキャリアにとてもいい影響があった」「包括的な課題解決の難しさを実感した」「また語り継ぐ誰かを連れて三陸を訪れます」といった声が寄せられました。

■問い合わせ　県庁県北・沿岸振興室
☎019-629-5196

BURARI SANRIKU ぶらり 三陸 山田町

やまだ ワンダフル体験 ビューロー

ホームページ

やまだワンダフル体験ビューローは、岩手県山田町の豊かな自然や地域文化、人々の暮らしを体験型プログラムを通じて伝える総合窓口です。漁業体験や養殖見学など、山田町ならではの魅力を五感で学ぶことができます。

また、東日本大震災の津波被害や復興の歩みを伝える「震災語り部」活動にも取り組み、被災体験や防災・減災の大切さを地域住民の視点から発信しています。まち歩きやガイドを通じて、震災前後のまちの変化や復興の現状を学ぶことができます。

震災の記憶を後世に伝えるとともに、海とともに生きる山田町の魅力や人とのつながりを体感できる施設・団体として、多くの学びと気づきを提供しています。

場　所　岩手県下閉伊郡山田町大沢2－1－6
休業日　毎週水曜日
受付時間　8：30～17：30
■問い合わせ　☎0193-65-7901
FAX0193-65-7902
メール　yamakan@yamada-kankou.jp

山田町の震災津波被害や復興の現状を学ぶことができます

←※ウェブサイト「いわて震災伝承施設・団体ガイド IWATE TSUTAERU ～語り継ぐ 未来のために～」では、他にも岩手県内の約40の震災伝承施設・団体を紹介しています。三陸地域の観光や教育旅行の検討の参考に、ぜひご覧ください。

いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いを持ち、活躍する方々を紹介します。第142回は**上山 未来**さんをご紹介

三陸鉄道株式会社
うえやま　みらい
上山 未来さん

～震災の記憶を未来へ伝える～

PROFILE
宮古市田老地区出身。小学２年生のときに被災。震災後、運行を再開した三陸鉄道の姿を見て憧れを抱き、2023年に入社。現在は駅の窓口業務に加え、震災学習列車のガイドなどを通して、子どもから大人まで多くの人たちに震災の記憶を伝え続けている。

街に色が戻った瞬間

上山さんが三陸鉄道に憧れを抱いたのは、東日本大震災が発生した後のことでした。当時、田老第一小学校の２年生だった上山さんは、発災時、高台にある学校の校庭に避難しました。幸い、自宅も高台にあり、津波が街を飲み込む様子を目にすることはありませんでした。それでも小学生時代の記憶は、瓦礫に覆われたモノクロの街の風景ばかりだったと振り返ります。

2011年３月20日、三陸鉄道は宮古―田老間の運行を再開。上山さんが暮らす田老地区にも、汽笛を鳴らしながらやってきました。周りの大人たちが旗を振ったり泣いたりする中で、上山さんはトリコロールの列車を見て「街に色が戻った」と感じました。そのとき「三鉄ってこんなにきれいなんだ、かっこいいんだ」と思ったことが、将来を決めるきっかけになったのです。

未来のために風化させない

2023年、上山さんはその夢を叶えて三陸鉄道へ入社しました。「採用が決まったときには、家族みんなで喜びました」と笑顔で語ります。

現在は宮古駅の窓口業務のほか、震災学習列車のガイドや外部ツアーの添乗員など、忙しい日々を送っています。

「あれから15年以上が経ち、震災を知らない子どもたちも増えてきました。津波は、きっとまた来ます。これからも風化させないよう、自分なりの言葉で伝え続けていきたいです」と、力強い眼差しで語ってくれました。

発信　いわて震災伝承施設・団体ガイド IWATE TSUTAERU～語り継ぐ 未来のために～

「IWATE／TSUTAERU ～語り継ぐ 未来のために～」は、岩手県内の震災伝承施設や語り部団体、防災学習プログラムを紹介するウェブサイトです。東日本大震災津波の教訓や復興の歩みを学べる施設・体験情報を掲載しており、学校や企業の防災学習、研修、視察の際にぜひお役立てください。

■問い合わせ　県庁復興推進課
☎019-629-6945

いわて震災伝承施設・団体ガイド IWATE TSUTAERU
～語り継ぐ未来のために～
県内の震災伝承施設や語り部団体、防災学習プログラムなどの情報を紹介しています。

IWATE TSUTAERU　検索

発信　いわて震災津波アーカイブ～希望～

「いわて震災津波アーカイブ～希望～」は、東日本大震災津波の被害や復興の軌跡、教訓を伝えるために岩手県が運営するウェブサイトです。写真や映像、記録誌、防災・復興教育教材などをテーマや地域ごとに検索でき、防災学習や研究、復興ツーリズムなどにぜひご活用ください。

■問い合わせ
県庁復興推進課
☎019-629-6945

いわて震災津波アーカイブ～希望～
約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ　検索

岩手県の被害状況　※全て令和8年9月30日現在

■人的被害　死者：5,147人（余震、震災関連死を含む）
行方不明者：1,106人
■建物被害（住家のみ、全半壊）26,075棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等
いわて防災情報ポータル　検索

皆さんのご支援、ありがとうございます　※全て令和8年9月30日現在

■義援金受付状況　約188億8,969万円(100,008件)
■寄附金受付状況　約212億9,855万円(35,279件)
■いわての学び希望基金(※)受付状況　約109億4,657万円(29,789件)
※被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

いわて復興だより 第196号
令和8年10月28日発行　企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945　編集・校正／永代印刷株式会社

次回は令和9年3月の発行を予定しています。